日本学術会議　第27期
記者会見（令和8年11月27日）
資料3

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和８年１１月２７日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	11月28日(土) 13:00～15:10	オンライン開催	公開シンポジウム「動物の安楽死を考えるIII」
2	11月28日(土) 13:00～17:20	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	公開シンポジウム　「植物病虫害・雑草管理の再構築　－IPMへの取り組みを中心に－」
3	12月4日(金) 13:30～17:00	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	学術フォーラム「人口減少・AI活用時代における経営人材・経営専門人材の育成」
4	12月7日(月) 9:55～17:15	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	公開シンポジウム　「第16回計算力学シンポジウム」
5	12月13日(日) 14:00～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「婚姻平等とＳＯＧＩ差別禁止–学術会議の２つの見解から」
6	12月14日(月) 13:30～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム　「長生きを喜べる社会へ～日本の挑戦と科学の役割～」
7	12月14日(月) 13:30～15:15	ハイブリッド （広島大学附属中・高等学校 ）	サイエンスカフェ「人類学の２つの視点から考える人間と集団」
8	12月15日(火) 14:20～18:00	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	学術フォーラム「洋上風力発電開発のあり方～地質・地盤リスク対応と協働の観点から～」
9	12月23日(水) 13:00～15:25	ハイブリッド （三重大学）	中部地区会議主催学術講演会「ものづくりを支える先端研究の未来－持続可能な社会を創る学術とイノベーション－」
10	12月23日(水) 14:00～16:20	ハイブリッド （J:COMホルトホール大分）	九州・沖縄地区会議学術講演会「ＧＸで拓くカーボンニュートラル社会（仮題）」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

日本学術会議一般公開イベント
（https://www.scj.go.jp/ja/event/index.html）

公開シンポジウム

動物の安楽死を考えるIII

― 科学・倫理・社会の視点から ―

動物福祉の向上と社会的理解の促進をめざして

動物に関わる倫理的課題への社会的関心が高まる中、「安楽死」は、
動物を不必要な疼痛や苦痛・苦悩から解放するための重要な獣医学的課題です。
本シンポジウムでは、実験動物、伴侶動物、野生動物、シェルターメディスンの
各分野における現状と課題について、専門家による講演を通じて理解を深め、
我が国における科学的根拠に基づく安楽死のあり方を議論します。



2026年11月28日（土）
13:00〜15:10

オンライン開催
（参加費無料）

どなたでもご参加いただけます

プログラム

司会 石塚真由美（日本学術会議連携会員/北海道大学獣医学研究院 教授）

座長　田中 亜紀（日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科 特任教授）　中村 進一（岡山理科大学獣医学部獣医学科 講師）

13:00	開会の挨拶	堀 正敏 （日本学術会議 第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医薬理学研究室 教授）
13:05	実験動物の安楽死を考える前に ― 動物実験・動物福祉・制度を知る ―	坂本 雄二 （株式会社ケー・エー・シー）
13:35	実験動物と伴侶動物の安楽死を考える ― 実験動物医学専門医制度、麻酔科学、米国獣医学会「動物の安楽死指針」を手がかりに ―	佐々木 一益 （秋田県立循環器・脳脊髄センター 主任研究員／袋原どうぶつクリニック）
14:05	野生動物の保全管理における捕殺・安楽死と動物福祉 ― 現場の現状と課題 ―	森光 由樹 （兵庫県立大学大学院（共生博物部門）准教授）
14:35	シェルターメディスンにおける安楽死とワンヘルス	木原 友子 （日本獣医生命科学大学 応用獣医学部門 野生動物学研究室 助教）
15:05	閉会の挨拶	高井 伸二 （日本学術会議 第二部会員 連携会員／北里大学 名誉教授）

主　催　日本学術会議 食料科学委員会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会

共　催　日本法獣医学会

参加申込
右のQRコードからお申し込みください。

日本学術会議公開シンポジウム

植物病虫害・雑草管理の再構築

ーIPMへの取り組みを中心にー



「みどりの食料システム戦略」では、化学農薬使用量（リスク換算）の低減が掲げられています。一方、食料安全保障の重要性が高まり、病害虫の発生予防及びまん延防止も求められています。環境負荷の低減と安定的な食料生産を両立するため、IPMを中心とした病害虫・雑草管理の見直しが必要です。

本シンポジウムでは、制度・施策と生産現場の実践事例・課題を共有し、今後の植物病虫害・雑草管理の再構築を議論します。

令和8年（2026年）
11月28日（土） 13:00～17:20

日本学術会議講堂 （東京都港区六本木7-22-34）
ハイブリッド開催（会場・オンライン）

一般参加　可能｜参加費無料

主　催　日本学術会議農学委員会
農学委員会植物保護科学分科会

共　催　日本植物保護科学連合

プログラム

13:00　開会挨拶
渡辺 京子（日本学術会議第二部会員／植物保護科学分科会委員長 ／玉川大学農学部教授）

13:05　総合防除の実践が切り拓く病害虫・雑草防除
～生産現場への浸透に向けた具体的方向性～
白石 正美（農林水産省消費・安全局植物防疫課防疫対策室長）
[座長]**松本 宏**（日本学術会議連携会員／筑波大学名誉教授）

13:40　IPM再構築に向けた構成要素の探索
－食品添加物・植物・微生物が拓く新たな植物病害管理－」
池田 健太郎（法政大学生命科学部准教授）
[座長]**越智 直**（農研機構植物防疫研究部門上級研究員）

14:15　微生物除草剤による雑草管理の可能性と展望
泉 真隆（京都大学農学研究科助教）
[座長]**黒川 俊二**（京都大学農学研究科教授）

14:50　休　憩（10分）

15:00　ジャスモン酸を介した植物防御の制御と応用
－害虫忌避剤の開発と新たな食用資源の創出－
安部 洋（理化学研究所バイオリソース研究センター専任研究員）
[座長]**草島 美幸**（慶應義塾大学法学部助教）

15:35　イノベーションの罠から抜け出すためのIPM
笠井 敦（静岡大学農学部生物資源科学科准教授）
[座長]**大井田 寛**（法政大学生命科学部教授）

16:10　農業生態系保全と総合的病害虫・雑草管理における農薬が果たす役割
山本 敦司（東京農業大学客員教授）
[座長]**水口 智江可**（名古屋大学大学院生命農学研究科准教授）

16:45～17:15　総合討論
[司会]**西田 智子**（日本学術会議連携会員／農業・食品産業技術総合研究機構理事）

17:15　閉会挨拶
與語 靖洋（日本植物保護科学連合運営委員会副委員長／日本植物調節剤研究協会技術顧問）

参加申し込み
QRコードまたは下記のURLのフォームよりお申込みください
https://forms.gle/b4MVAAPpnG4LFWZi6

お問い合わせ
フォームから申し込みができない場合は、
890090@eve.tamagawa.ac.jp までご連絡ください。
メールの件名は、
【病害虫シンポジウム】〇〇〇（要件）としてください。

日本学術会議主催 学術フォーラム

「人口減少・AI活用時代における経営人材・経営専門人材 の育成」

人口減少・少子高齢化と生成AIの急速な進展により、企業の経営人材や公認会計士などの経営専門人材の育成は、大きな転換点を迎えています。本フォーラムでは、経営学・会計学などのアカデミアと産業界の知見を結集し、AI活用時代に求められる人材像と、大学・生涯教育、資格・認証制度のあり方について議論します。

コーディネーター：原 良憲（日本学術会議 経営学委員会 AI時代に備える経営人材育成に関する分科会 委員長）

2026
12月4日(金)

13:30-17:00

日本学術会議講堂
東京都港区六本木7-22-34　※オンライン参加も可

無料

日本公認会計士協会 CPD単位取得可能

公認会計士の皆様へ: 本フォーラムは、日本公認会計士協会のCPD単位の会場での登録申請は受け付けておりません。会場での受講、リモートでの受講に関らず、単位付与をご希望の方は、受講後にご自身で申請してください。

参加登録フォーム
申込締切 11/24(火)
https://forms.gle/BTP2NxU7kiqmETRB9

Program

13:30～

司会：佐々木郁子（東北学院大学　国際学部　教授）

開　会　挨　拶	戸谷　圭子	（日本学術会議第一部会員･経営学委員会　委員長、明治大学グローバル･ビジネス研究科 専任教授）
共　催　挨　拶	西尾 チヅル	（経営関連学会協議会 理事長、筑波大学 副学長）
分科会活動報告	原　良憲	（大阪成蹊大学 データサイエンス学部 教授）

13:50～

Panel Discussion 1:
「AI活用時代の経営人材の育成と教育改革」

ファシリテーター：原 良憲

Panelists



菊地 唯夫
ロイヤルHD
取締役会長
経済同友会副代表幹事



坂本 大
Benhamou Global
Ventures パートナー
（オンライン）



下條 真司
青森大学
ソフトウェア情報学部
教授



鈴木 智子
一橋大学大学院
経営管理研究科
教授

15:25～

Panel Discussion 2:
「AI活用時代の会計監査等の専門教育・資格制度」

ファシリテーター: 野口 晃弘（南山大学 経営学部 教授）

Panelists



蟹江 章
公認会計士・監査
審査会 委員



阪 智香
関西学院大学
商学部　教授



藤本 貴子
日本公認会計士協会
副会長



古澤 知之
公益監視委員会
（PIOB）メンバー

16:50～　**閉　会　挨　拶**　**阪　智香**（日本学術会議第一部会員･経営学委員会 委員）

主催：日本学術会議　共催：経営関連学会協議会

お問合せ：日本学術会議事務局学術フォーラム担当
TEL 03-3403-6289



日本学術会議

第16回 計算力学シンポジウム

若手研究者による最新成果と、AI・デジタルツインの課題と展望

日 時 令和8年12月7日(月) 9:55-17:15

場 所 日本学術会議講堂
及び オンライン webinar
(ハイブリッド開催)

参 加 無料（事前申し込み不要）
直接ご来場いただくか
QRコードよりご参加ください

オンライン参加はこちら

共 催
可視化情報学会、CAE懇話会、
日本応用数理学会、日本機械学会、
日本計算工学会、日本計算数理工学会、
日本計算力学連合、日本シミュレーション学会、
アジア太平洋計算力学連合、
国際計算力学連合

第Ⅰ部 若手研究者による講演

- 9:55-10:00 **開会の辞** 坪倉 誠（日本学術会議、神戸大学大学院、理化学研究所）
- 10:00-10:20 講演１（日本計算力学連合）
  綱澤 有輝（産業技術総合研究所 地質調査総合センター）
  固液・固気混相流プロセスに対するDEM粗視化モデルの適用性評価
- 10:20-10:40 講演２（日本応用数理学会）
  堀 綾子（早稲田大学大学院 基幹理工学研究科）
  多成分短パルス方程式の可積分全離散化と自己適合移動格子スキームの構築
- 10:40-11:00 講演３（日本計算工学会）
  松原 成志朗（東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 准教授）
  エネルギー停留原理に基づく一般散逸固体の熱・機械連成解
- 11:00-11:20 講演4（日本機械学会計算力学部門）
  深見 開（東北大学 大学院工学研究科　航空宇宙工学専攻 准教授）
  情報理論的機械学習を用いた非定常流体解析
- 11:20-11:40 講演5（CAE懇話会）
  梅谷 信行（東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授）
  微分可能レンダリングを使った３次元デザイン支援

11:40-12:50 昼休み

- 12:50-13:10 講演６（日本計算数理工学会）
  斎藤 隆泰（東京都市大学 建築都市デザイン学部 都市工学科 教授）
  弾性波動問題へのPhysics-Informed Neural Networksの展開 ― 順解析から逆解析まで ―
- 13:10-13:30 講演７（可視化情報学会）
  川嶋 大介（千葉大学大学院工学研究院 助教）
  電気トモグラフィよる細胞境界形状の逆解析
- 13:30-13:50 講演８（日本シミュレーション学会）
  横田 宏（東京都立大学 理学部 物理学科 助教）
  曲げ変形と“ねじれ”変形によるはしご型高分子の構造と力学応答
- 13:50-14:10 講演９（アジア太平洋計算力学連合）
  崔 翌（名古屋大学 大学院工学研究科 機械システム工学専攻 准教授）
  物質輸送と欠陥形成のマルチスケール計算力学

14:10-14:20 休憩

第Ⅱ部 特別企画
「信頼して運用できるAIの課題と展望」

オーガナイザー：和田義孝（近畿大学理工学部 教授）

14:20-14:50 特別講演１
松村 隆（東京電機大学 教授）
生産加工プロセスのデジタルツイン（仮題）

14:50-15:20 特別講演２
酒井 幹夫（東京大学 教授）
粉体プロセスのためのシミュレーションベース
デジタルツインの基盤技術とその社会実装

15:20-15:50 特別講演３
平野 徹（ダイキン工業株式会社）
企業におけるマルチスケールCAEから
拡張デジタルツインへの取組

15:50-15:55 休憩・会場準備

15:55-17:05 総合討論
パネリスト：松村 隆、酒井 幹夫、平野 徹、
西尾 真由子（筑波大学 准教授）、
坂田 綾香　（お茶の水女子大学 准教授）
モデレーター：和田 義孝

17:05-17:15 **閉会の辞**
越塚 誠一（日本学術会議第三部会員、
東京大学大学院工学系研究科 教授）

開催趣旨 我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露します。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果を、まとめて聞くことができる貴重な機会です。さらに、特別企画「信頼して運用できるAIの課題と展望」を開催し、シミュレーションとAIの融合がもたらす未来について議論します。

問合せ先 和田 義孝（近畿大学理工学部 教授）
wada@mech.kindai.ac.jp

https://sites.google.com/mech.kindai.ac.jp/cm-symposium2026/ホーム

アクセス
日本学術会議講堂

〒106-8555
東京都港区六本木7-22-34
日本学術会議

東京メトロ 千代田線
「乃木坂駅」5番出口 徒歩1分
都営大江戸線
「六本木駅」7番出口 徒歩6分

※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。



日本学術会議 公開シンポジウム

婚姻平等とSOGI差別禁止

―学術会議の2つの見解から―

日　時	令和8（2026）年12月13日（日） 14:00〜17:00
会　場	オンライン開催（Zoom使用・事前申込制）
参加費	無料（一般参加歓迎）

近年、性的マイノリティ（LGBTQ+）に関わる重要な司法判断が続いています。これを踏まえて、日本学術会議法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会は、第26期に2つの見解（「婚姻の平等実現に向けた民法改正への提案」「性的マイノリティの権利保障をめざして(II)」）を公表しました。本シンポジウムでは、これら2つの見解を紹介し、理論と比較、当事者の意見を交えて今後の課題を展望します。

プログラム　PROGRAM SCHEDULE

14:00　開会挨拶（5分）
島岡 まな（日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授）

14:05　趣旨説明（10分：2見解の紹介）
三成 美保（日本学術会議連携会員／追手門学院大学法学部教授）
鈴木 賢（日本学術会議連携会員／明治大学法学部教授）

14:15　第1部：婚姻平等――最高裁判決を前に（50分）
- **報告（20分）「憲法理論から」**
  大河内 美紀（日本学術会議第26期連携会員／名古屋大学大学院法学研究科教授）
- **報告（20分）「当事者として」**
  小野 春（「結婚の自由をすべての人に訴訟」原告）
- **コメント（10分）「最高裁判決を前に」**
  木村 草太（日本学術会議連携会員／東京都立大学政治学研究科・法学部教授、ビデオ収録参加）

―― 休憩（10分） ――

15:15　第2部：トランスジェンダーと性同一性障害特例法（50分）
- **報告（20分）「日本法の現状と課題」**
  神谷 悠一（日本学術会議第26期連携会員／LGBT法連合会代表理事）
- **報告（20分）「トランスセクシュアル法から性別自己決定法へ―ドイツ法との比較から」**
  渡邉 泰彦（明治大学法学部教授）
- **コメント（10分）「当事者として」**
  鈴木 げん（「オペなしで！戸籍上も『俺』になりたい裁判」原告）

―― 休憩（10分） ――

16:15　討論・全体質疑応答（40分）

16:55　閉会挨拶（5分）
矢野 恵美（日本学術会議第一部会員／琉球大学法科大学院長・副学長）

［司会］ 鈴木 賢（日本学術会議連携会員／明治大学法学部教授）

申込締切：2026年12月10日

主催：日本学術会議法学委員会、法学委員会・心理学・教育学委員会合同
社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会

お申し込みはこちら
（事前登録制）
右記QRコードより
ご登録ください

公開シンポジウム

長生きを喜べる社会へ

～日本の挑戦と科学の役割～

日　時：令和 8 年 12 月 14 日（月）13：30 ～ 16：00

場　所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

開始時刻になりましたら、以下のリンクよりご参加ください

Zoom ウェビナー：開催日の数日前に、こちらの欄に追記いたします

一般参加可、事前申し込み不要、参加費無料

趣　旨：超高齢化が進む我が国において、誰もが取り残されず、障害を有しても社会で安心して生き生きと生活・活動できるよう、生活機能を包括的に捉える視点と環境因子への働きかけが必須である。老化分科会においては第 21 期から、提言、見解を発出してきたが、それらがどのようなインパクトを社会に与えたかについては検証できていなかった。今回、第 26 期の老化分科会においてこれまでの意思の表出による影響を調査し、報告としてまとめた。本シンポジウムでは、これまでの意思の表出を振り返るとともに、今後の高齢社会における課題や、より多くの方面への周知、意識の醸成のさらなる工夫について議論する。

◇総合司会：飯島　勝矢

（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

13:30　開会の辞：荒井　秀典（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長）

【第１部】超高齢社会の課題　13：40～14：40

『老年医学的内容を中心に』

秋下　雅弘（日本学術会議第二部会員／地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター理事長）

『社会福祉の視点から』

和氣　純子（日本学術会議第一部会員／東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

【第２部】老化分科会からの「報告」に関して　14：40～15：20

『今回の意思の表出にあたって：その狙い』

荒井　秀典（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長）

『「報告」の概要』

飯島　勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

【第３部】総合討論　15：25～15：55

司会：荒井　秀典（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長）

＜論点＞①高齢社会における課題：今まさに何が重要かつ深刻か　～それに対する打開策の切り込み方とは～

②より多くの方面への周知、意識の醸成のさらなる工夫　～そのために領域横断で何ができるのか～

＜参加登壇者＞和氣　純子（日本学術会議第一部会員／東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

西　希代子（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院法務研究科教授）

山田　あすか（日本学術会議連携会員／東京電機大学未来科学部建築学科教授）

秋下　雅弘（日本学術会議第二部会員／地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター理事長）

15:55　閉会の辞：飯島　勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

主　催：日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、臨床医学委員会

後　援：日本老年学会/一般社団法人日本老年医学会

広島大学WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム
日本学術会議サイエンス・カフェ

人類学の２つの視点から考える人間と集団

海を越えた最初の日本列島人～実験航海で探った３万年前の挑戦～



自然人類学
東京大学総合研究博物館　教授
海部 陽介 先生

【講演者経歴】
東京大学大学院理学系研究科博士課程（1994～1995）
国立科学博物館人類研究部（2015～2020）
国立科学博物館「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」代表（2016～2020）
日本人類学会会長（2024～）
海洋立国推進功労者表彰・日本人類学会賞等受賞
日本学術会議連携会員 (2023～)
【主たる著書】
『サピエンス日本上陸』（講談社、2020年）
『人間らしさとは何か』（河出書房新社、2022年）

「人種」「民族」ってなに？～外国人ヘイトの時代に考えよう～



文化人類学
関西外国語大学国際文化研究所長・教授
京都大学名誉教授
竹沢 泰子 先生

【講演者経歴】
京都大学理事補・総長補佐 (2008-2014)
日本移民学会 会長 (2022-2024)
カリフォルニア大学ロサンジェルス校 客員教授 (2023-2024)
日本民族学会（現・日本文化人類学会）澁澤賞受賞
日本学術会議会員 (2023～)
【主たる著書】
『アメリカの人種主義～カテゴリー/アイデンティティの形成と転換』(名古屋大学出版会、2023年)
『日系アメリカ人のエスニシティ～強制収容と補償運動による変遷』(東京大学出版会、1994年、新装版2017年)

主催：広島大学附属中・高等学校, 日本学術会議
共催：科学研究費（挑戦）「人間の「ちがい」と差別に関する人類学的研究」（研究代表：竹沢泰子　24K21178）

【対象】
WWLコンソーシアム拠点校・連携校の高校生と教職員の皆様
一般市民の皆様（どなたでも）

【場所】広島大学附属中・高等学校 講堂 / Zoom（オンライン）
※一般市民の皆様はZoomでのご参加をお願いいたします。

12/14 Mon.
13:30 ～ 15:15

右のQRコード、または広島大学WWLコンソーシアムのHPよりお申し込みください。

【締切】12月7日（月）15:00まで

○お問い合わせ
広島大学WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム事務局
wwl2022ysh@hiroshima-u.ac.jp
〒739-8524 広島県東広島市鏡山1丁目1番1号　広島大学教育学部内

日本学術会議主催学術フォーラム

洋上風力発電開発のあり方

～地質・地盤リスク対応と協働の観点から～

令和８年

12月15日（火）

14:20～18:00

参加費無料
ハイブリッド開催

会場 日本学術会議講堂
東京都港区六本木 7-22-34

日本において洋上風力発電には大きな期待が寄せられており、海洋再エネ整備法の制定や政府による各種方針の下で、開発は進展している。しかしながら、現在いくつかの重要な課題に直面している。第一に、海域の構造的特性に起因する課題である。欧州に多く見られる非活動的な大陸縁辺域とは異なり、日本は地震・火山活動が活発な島弧・陸弧に位置しており、活動的縁辺域特有の地質・地盤リスクへの対応が不可欠である。第 25 期においては、これらの課題を踏まえ、地質・地盤災害リスク認知の必要性、体系的ガイドライン整備の必要性、海底地質データの利活用、ならびに人材育成および産学官連携の重要性について見解を公表した。さらに第 26 期においては、安全・安心を前提とした持続可能な開発・運用の実現に向けたガイドラインに関する見解を公表した。加えて、地域社会との協働の在り方も重要な論点である。本学術フォーラムでは、これら二つの見解の内容を紹介するとともに、パネルディスカッションを通じて地質・地盤リスクの軽減の重要性、地域連携の課題、海外の動向を含めた議論を行い、洋上風力発電の現状と課題について広く社会の理解を深めることを目的とする。

お申込み https://form.scj.go.jp/c9e4d7a1-1215.html

申込締切 12 月 10 日（木） 事前参加登録をお願いします。

主催 日本学術会議

後援 IUGS（国際地質科学連合）、公益社団法人日本地球惑星科学連合、
公益社団法人地盤工学会、公益社団法人物理探査学会、海底地質リスク評価研究会、
International Consortium on Landslides、国立台湾大学海洋研究所、
公益社団法人土木学会（予定）、一般社団法人日本風力エネルギー学会、
一般社団法人環境情報科学センター、公益財団法人日本工学アカデミー、
山口大学地域レジリエンス研究センター

お問合せ 日本学術会議事務局学術フォーラム担当（TEL 03-3403-6289）

日本学術会議主催学術フォーラム

洋上風力発電開発のあり方

～地質・地盤リスク対応と協働の観点から～

▶コーディネーター

大久保　泰邦	（日本学術会議第 26 期連携会員／地熱技術開発株式会社探査部研究主幹）

▶司会

大野　恵美	（日本学術会議第 26 期連携会員／株式会社ＩＨＩ技術理事・技術戦略室）

▶スケジュール

14:20 ～ 14:30	**趣旨説明**
	大久保　泰邦 （日本学術会議第 26 期連携会員／地熱技術開発株式会社探査部研究主幹）
14:30 ～ 15:10	講演 **『セントラル調査における地質・地盤調査』**
	岡田　和也 （独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構再生可能エネルギー事業本部洋上風力事業部主席研究員）
15:10 ～ 15:50	講演 **『海底域の地質・地盤災害リスクの評価予測と予防保全対策』**
	佐々　真志 （国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所地盤研究領域動土質研究グループ長）
15:50 ～ 16:30	講演 **『台湾における洋上風力ガイドラインについて』**
	川村　喜一郎 （日本学術会議第 26 期特任連携会員／山口大学大学院創成科学研究科教授）
16:30 ～ 16:50	**休憩**
16:50 ～ 17:50	**パネルディスカッション** テーマ：**『今後の洋上風力発電開発のあり方』**
	司　会
	岩城　智香子 （日本学術会議第 26 期連携会員／株式会社東芝総合研究所首席技監／東京科学大学特任教授）
	パネラー
	竹内　彩乃 （東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授）
	野村　英雄 （基礎地盤コンサルタンツ株式会社代表取締役社長）
	佐々　真志 （国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所地盤研究領域動土質研究グループ長）
	岡田　和也 （独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構再生可能エネルギー事業本部洋上風力事業部主席研究員）
	川村　喜一郎 （日本学術会議第 26 期連携会員（特任）／山口大学大学院創成科学研究科教授）
17:50 ～ 18:00	**閉会の挨拶**
	岩城　智香子 （日本学術会議第 26 期連携会員／株式会社東芝総合研究所首席技監／東京科学大学特任教授）
18:00	**閉　会**

日本学術会議中部地区会議学術講演会

ものづくりを支える先端研究の未来

参加費無料
どなたでも参加できます。

―持続可能な社会を創る学術とイノベーション―

「ものづくりを支える先端研究の未来」をテーマに、産業の発展を直接的に支える技術から、将来の革新的なものづくりにつながる基礎・先端研究まで、幅広い研究分野の知見を共有する。科学とビジネスの近接が進む時代において、科学技術・学術研究と産業がいかに新たな知を生み出し、それがどのように産業や社会と結びついていくのかについて、具体的な先端研究の事例を通じて、その展望を議論する。

令和8年
12月23日(水)
13:00～15:25

13:00～13:10	**開会挨拶** 三重大学長 伊藤 正明
13:10～13:20	**日本学術会議会長開会挨拶** 日本学術会議会長 加藤 和人 （日本学術会議会長・第二部会員、大阪大学名誉教授/ヒューマン・メタバース疾患研究拠点（WPI-PRIMe）特任教授（常勤））
13:20～13:30	**主催者挨拶** 日本学術会議第三部会員、名古屋大学大学院工学研究科有機・高分子化学専攻教授 石原 一彰
13:30～13:40	**懇談会活動報告** 科学者との懇談会活動報告 中部地区科学者懇談会幹事長／愛知教育大学名誉教授、元学長 松田 正久 日本学術会議第198回総会を傍聴して 中部地区科学者懇談会三重県幹事／三重大学教育学部教授 瀬戸 美奈子
13:40～15:20	**学術講演会** テーマ：ものづくりを支える先端研究の未来－持続可能な社会を創る学術とイノベーション－ 「窒化物半導体の結晶をつくり、向きを操る －深紫外LEDから新原理デバイスへ－」 三重大学研究基盤推進機構半導体・デジタル未来創造センター准教授 正直 花奈子 「生体分子で創るさまざまな構造と機能 －DNAの自己集合で拓くものづくりの未来－」 三重大学大学院工学研究科准教授 鈴木 勇輝
15:20～15:25	**閉会挨拶** 司会：日本学術会議連携会員、三重大学大学院医学系研究科環境分子医学分野教授 堀 美香

三重大学

地域イノベーション研究開発拠点C棟 3階
地域イノベーションホール（津市栗真町屋町1577）

ハイブリッド開催

https://forms.cloud.microsoft/r/Re5wUEeKJs

【参加申込方法】
参加を希望される方は12月16日(水)までに左記URLまたはQRコードより事前申込みをお願いいたします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。

お問い合わせ
● 日本学術会議中部地区会議事務局（名古屋大学研究協力部研究企画課内）
TEL：052-789-2039 FAX：052-789-2041
● 三重大学研究・地域連携部研究推進チーム
TEL：059-231-9704 FAX：059-231-9705

主催 日本学術会議中部地区会議
共催 三重大学
https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html

日本学術会議中部地区会議学術講演会

講師プロフィール

講演題目

窒化物半導体の結晶をつくり、向きを操る

～深紫外LEDから新原理デバイスへ～



講　　師

三重大学研究基盤推進機構半導体・デジタル未来創造センター准教授　**正直 花奈子**

講演要旨

青色LEDで知られる窒化物半導体は、殺菌・浄水に用いられる深紫外LEDや、省エネルギー化に貢献する電子デバイスを支える材料です。その性能を引き出すには、原子が規則正しく並んだ高品質な結晶をつくることが欠かせません。この“結晶の向き”（結晶極性）を制御することで、光や電子の振る舞いを左右し、発光効率の改善や、新たな機能を持つデバイスの実現につながります。本講演では、窒化物半導体の結晶成長と深紫外LEDへの応用を紹介します。さらに、結晶の極性を反転させる技術と、光の波長を変える素子への応用を解説し、新しい電子デバイスや光量子デバイスの可能性を展望します。原子の並びを制御する研究が、身近な光源の高性能化から新原理デバイスへとつながる過程をお話しします。

プロフィール

2016年東北大学大学院工学研究科博士課程修了。博士（工学）。東北大学助教、日本学術振興会海外特別研究員（スイス連邦工科大学ローザンヌ校）、三重大学助教、京都大学講師を経て、2026年4月より三重大学半導体・デジタル未来創造センター准教授。専門は窒化物半導体の結晶成長と光デバイス応用。日本学術振興会育志賞、応用物理学会D&I賞（女性研究者研究奨励賞）、応用物理学会論文賞などを受賞。

講演題目

生体分子で創るさまざまな構造と機能

～DNAの自己集合で拓くものづくりの未来～



講　　師

三重大学大学院工学研究科准教授　**鈴木 勇輝**

講演要旨

DNAというと、私たち生物の遺伝情報を担う物質というイメージが強いだろう。しかし、DNAは化学的に人工合成することができる優れた高分子材料でもある。DNAを素材として、さまざまなナノ構造体を自在に構築する技術はDNAナノテクノロジーと呼ばれ、ここ十数年で急速な発展を遂げている。ナノ材料としてのDNAの魅力は、塩基配列というかたちで「設計した構造へと組み上がるための情報」を分子そのものに書き込める点にある。本講演では、この高いプログラム性と塩基対形成に基づく自己集合能を活用し、さまざまな分子装置や分子機械をDNAで構築する手法を概説する。さらに、それらを組み合わせることで、より高次の構造や機能を階層的に創出するアプローチについても紹介する。生体分子を素材とした「ナノスケールのものづくり」を、いかに将来の機能材料や新たな技術の創出へとつなげていけるのか、その可能性について議論したい。

プロフィール

京都大学総合人間学部総合人間学科学士課程修了（2007年）。京都大学大学院生命科学研究科統合生命科学専攻博士後期課程修了（2012年）。博士（生命科学）。京都大学理学研究科特定研究員、東北大学学際科学フロンティア研究所助教を経て、2022年より現職。専門はナノバイオサイエンス、核酸ナノテクノロジー。

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会
「ＧＸで拓くカーボンニュートラル社会（仮題）」
の開催について

１．主　催：日本学術会議九州・沖縄地区会議

２．共　催：大分大学

３．後　援：大分県、大分市　※予定

４．日　時：令和８（2026）年 12 月 23 日（水）14：00 ～ 16：20

５．場　所：J:COM ホルトホール大分 小ホール　※予定
（大分県大分市金池南一丁目 5 番 1 号）（ハイブリッド開催）

６．一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

７．開催趣旨：
近年、低炭素社会の実現に向けたグリーントランスフォーメーション（GX）が国内外で急速に進展し、持続可能な社会の構築は学術界のみならず地域社会においても重要な課題となっている。大分県は、地熱・温泉熱をはじめとする豊富な発電資源、日本一の源泉数と湧出量、農業用水路を活用した小水力発電、さらには森林資源を活かしたバイオマスなど、多様な再生可能エネルギー資源を有しており、GX の実現に向けて大きな潜在力を持つ地域である。
本講演会は、低炭素化・カーボンニュートラルの観点から、最新技術や自然資源の活用に関する学際的な取り組みを紹介し、参加者がカーボンニュートラル社会の将来像を主体的に考える契機を提供することを目的とする。講演では、GX やカーボンニュートラルに関する最先端の研究成果や実践事例を多角的に取り上げ、地域の資源や技術の可能性に触れながら、持続可能な社会の実現に向けて共に考える場としたい。

８．次　第：
14:00～14:10　開会挨拶
明和　政子（日本学術会議副会長・第一部会員、京都大学大学院教育学研究科教授）
北野　正剛（大分大学長）

14:10～14:35　講演１　電力変換器と GX に関連する内容【仮題】
王　　吉喆（大分大学理工学部准教授）

14:35～15:00　講演２ 微生物と GX に関連する内容【仮題】
　　鈴木　絢子（大分大学理工学部助教）
15:00～15:25　講演３ 交通 DX・GX に関する内容【仮題】
　　三村　泰広（大分大学理工学部准教授）
15:25～15:50　講演４ 自動車の動力源とカーボンニュートラルに関する内容【仮題】
　　山口　卓也（大分大学理工学部教授）
15:50～16:15　講演５ 大分県の産業 GX の取組について【仮題】
　　阿部　浩孝（大分県商工観光労働部産業 GX 推進室室長）

※各講演 25 分間（それぞれ 5 分間の質疑応答を含む）
※講演順は変更の可能性あり

16:15～16:20　閉会挨拶
　　内田　誠一（日本学術会議第三部会員／九州大学理事・副学長）

▶ 司会進行：三重野　英子（大分大学医学部看護学科教授）

９．企画・運営責任者：内田　誠一（日本学術会議第三部会員／九州大学理事・副学長）